

第二浜田ダムのお知らせ

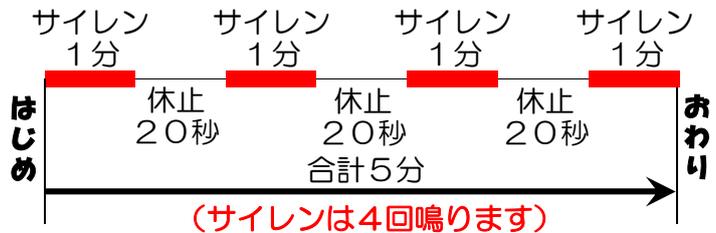
浜田川総合開発事業（第二浜田ダム建設、浜田ダム再開発）

**洪水期到来！
浜田川のダム警報が
変わります。**

第二浜田ダムの完成により、警報活動の方法、区域が変わります。
浜田ダムはゲート操作で水を放流していましたが、第二浜田ダムはゲートの無い自然調節型ダムです。

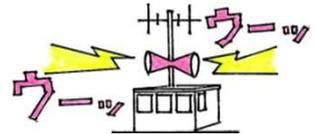
（自然調節型ダムの説明は裏面）

サイレンの鳴り方



このサイレンを聞いたら…

- ① 川に近づかない、また川には絶対に入らないでください。
- ② 川に入っている人は、速やかに川から上がってください。
- ③ 川に入っている人を見かけたら、川からすぐ上がるように呼びかけてください。

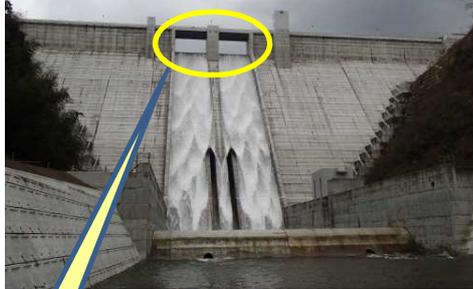


こんな時に警報活動を実施します

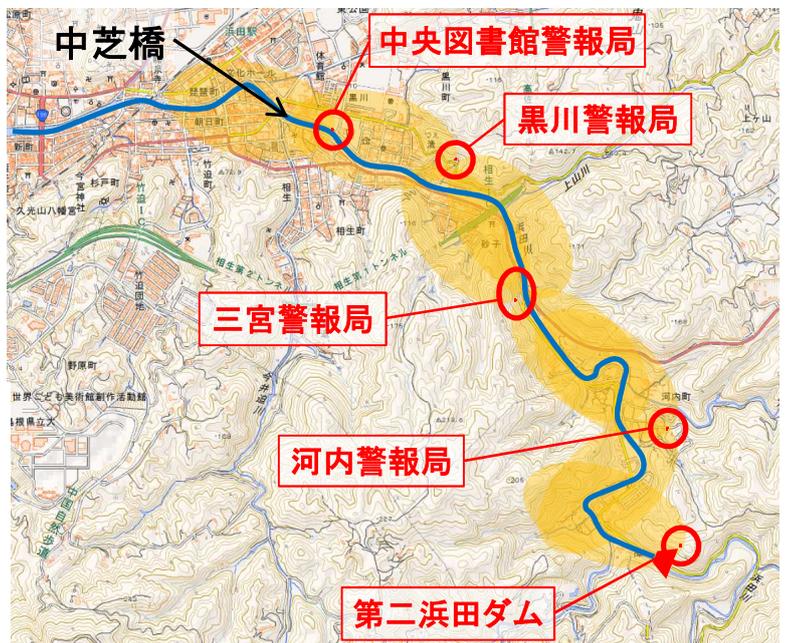
※警報活動とは、ダムから各警報局へのマイク放送、サイレン吹鳴および警報車からのマイク放送のことをいいます。

- (1) 急激な水位上昇が予測される時
（ダム下流で30分で30cm以上の急激な水位上昇）
 - (2) 非常用洪水吐を越流すると予想される時
- ※警報区間は、ダム～中央図書館付近（中芝橋）までです。

平成28年2月1日撮影



(2)はここを越流する時に警報活動を実施します。



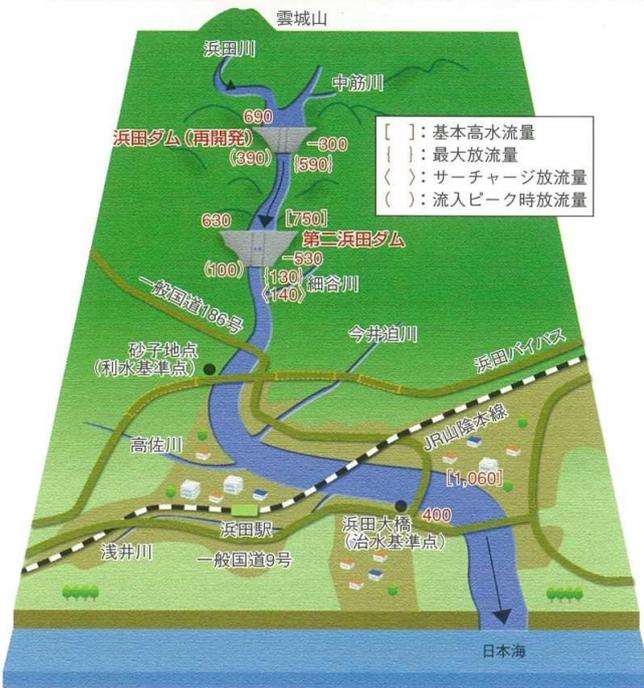
円内：サイレン等が聞こえる、おおよその範囲

〒697-0041 島根県浜田市片庭町254

島根県浜田河川総合開発事務所 ☎0855-29-5766

第二浜田ダムの洪水調整

流量配分図



平成28年2月1日撮影

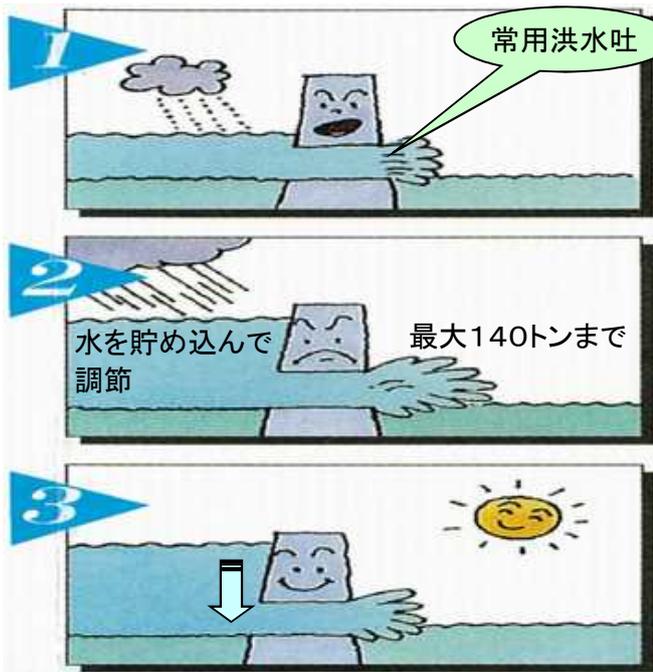


非常用洪水吐
(ダムが満杯になった場合に
放流する水の出口)

常用洪水吐
(通常の洪水調節で
放流する水の出口)

第二浜田ダムは洪水調節を行うためのゲートが無い自然調節型ダムであるため、人為的な操作により放流量を調節することはできません。
それでは、どのようにして洪水調節を調節するのでしょうか？

自然調節型ダムの洪水調節



大雨が降ってきて、たくさんの水がダムに押し寄せてきました。常用洪水吐から少しずつ放流が始まります。第二浜田ダムの常用洪水吐は最大140トンまでの水を流すことができます。

さらにダムに流れ込む水の量が増え常用洪水吐の能力を超えると、ダムの上流にたくさんの水を貯め込みます。第二浜田ダムでは最大で約1,420万トンもの水を貯めることができます。

雨が小降りとなり、ダムに流れ込む水の量が常用洪水吐から放流する水の量より少なくなると、ダムの水位が少しずつ下がりはじめます。さらに水位が常用洪水吐付近まで下がり、次の大雨に備えます。

※ 100年に1度あるかないかの大雨では、上流で降った雨が非常用洪水吐から流れ、下流の川があふれる可能性があります。